

各 位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫

両団体理事長 半 田 晴 久

新エネルギー委員長 中 島 稔

両団体専務理事 清 原 淳 平

新エネルギー委員会のお知らせ (第309回)

日 時 平成29年3月7日(火)午後1時半～4時

場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第3会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第3会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題 1、最近の再生・新エネルギーについて想う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、『新エネルギー関連ニュースNO.162』

解説 中島稔新エネルギー委員長

3、人工光合成技術の進展について

解説 井上晴夫首都大学東京教授

報 告 2月6日開催の第308回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、「最近の再生・新エネルギーについて想う」と題して、中島委員長より開会挨拶がありました。トランプ政権の国務長官に、地球温暖化説に懐疑的と噂される前エクソンモービルの会長が就任した。元々トランプ政権はオバマ政権下で締結したパリ協定からの離脱を示唆していたことでもあり、また環境を無視したシェールガス開発も積極的に行うことも予測され、温暖化の進行に歯止めがかからないのでは、と世界は今戦々恐々としている状態である。

次に、清原淳平専務理事より、本日の講師・西出宏之早稲田大学理

講学術院教授の経歴紹介がありました。

次に、西出教授より、「水素運搬を容易にする新技術について」解説がありました。水素は、副生成物が水のみであるから、環境負荷が少なく、次世代エネルギーとして注目されている一方、低温での貯蔵が必要でエネルギー負荷が大きく、爆発などの危険もあった。貯蔵、運搬を容易にできないか、ということで考え付いたのが、水素の分子を固定するポリマーに、アルコールの分子の数を増やし、このポリマーを80℃に加熱すれば、水素ガスを放出することが出来る。常温の状態であれば、水素をどこへでも持ち歩くことができる。また、昨年携帯電話用のリチウムイオン電池が突然発火して問題になったが、この水素ポリマーであれば、常温の状態では発火など危険な反応は起きない。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.162』の解説がありました。今回は、○金を触媒に使い、水から水素を製造する技術。小型で軽量のポータブル水素製造装置としての実用化にも期待。○150℃程度の低温でメタンから水素を生成する技術。○水から水素を簡素な方法で分離する技術。○印刷で作れる太陽電池。○宇宙太陽光発電の送電実験に成功。○地熱発電の調査を全国26地域で実施。北海道10件、東北5件、九州で7件。○工場から出る排熱などから出るエネルギーを活用し、ピストン運動させて発電機を動かす技術。5年後の実用化を目指す。○人工光合成の研究進む。現在、①天然の光合成使用、②半導体触媒の使用、③金属錯体・色素分子触媒の使用の3分野に分かれているが、実用化までにはあと数十年かかりそうだ。○牛フンで作った水素を燃料電池車へ。○金属メッキ技術で水素の製造コストを下げる。○鳥糞年間十三万トン発電で活用。○米から輸入されたシェールガスが日本初上陸。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円、非会員三千円にご協力を。

次回、3月7日(火)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

参加希望者は、予め履歴書をご提出下さい。

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp